

令和7年度 第3回 大分市地域公共交通協議会 議事概要

1. 日 時 令和7年10月30日(木) 10時～11時
2. 会 場 大分市役所本庁舎8階 大会議室
3. 出席者 別紙参照
4. 議 事

(1) 路線バス代替交通運行事業について

〔協議結果〕 承認

(2) 大分きゃんバス 年末年始の運休について

〔協議結果〕 承認

5. 報 告

(1) 大分きゃんバス 迂回運行について

(2) ふれあい交通 緑ヶ丘・辛幸2区ルートの一部変更について

(3) 住宅団地の移動支援実証実験について

6. 質問・意見等

議事(1)路線バス代替交通運行事業について……………資料1 資料2

番号	質問要旨	回答要旨
1	【委員】 滝尾地域は「ふれあい交通」への移行で良いと思う。	【事務局】 今後、地元との協議を進めてまいります。
2	【委員】 大分市内どこの地域に住んでいても、平等に公共交通が利用できるように今後も政策をお願いしたい。	【事務局】 大分市では、鉄道やバスの利用が不便な地域では、ふれあい交通や路線バス代替交通を運行しています。 引き続き、市民等の移動手段の確保に努めてまいります。
3	【委員】 毎年度、利用者アンケートを実施し運行の見直しを行っているということだが、野津原地域では利用率が横ばいになっている。どのような判断をしているのか。	【事務局】 見直しにより運行便数は減少しているが、利用していた人が利用しなくなったことで結果的に相殺され、利用率が伸びないのではないかと考える。野津原地域は中高生と高齢者の利用が多く、中高生の利用はあまり変わらないが、高齢者は施設等への入所で自宅を離れる人が増えているとの話を聞く。

番号	質問要旨	回答要旨
4	【委員】 利用者アンケートの「通学利用の把握」について、滝尾地域は対象外となっているが、地域内に学校は無いのか。	【事務局】 滝尾地域内で通学利用できる学校はない。大分駅方面への通学利用も考えられるが、現時点でそのような利用は見られない。
5	【委員】 芳河原地区は、住宅団地の移動支援実証実験とエリアが重なっているため、住民の混乱を招かないか懸念している。今後どのように考えているか。	【事務局】 芳河原地区は、移動支援の実験を行う敷戸団地とは異なる地区で、芳河原地区の住民からは敷戸団地のバスを利用することはほぼ無いと聞いている。芳河原地区では、今後、ふれあい交通を検討していく。
6	【委員】 住宅団地の移動支援実証実験のチラシには芳河原台が入っているが、そこでカバーしないところをふれあい交通で補っているという認識で良いか。	【事務局】 その認識で良い。

議事(2)大分キャンバス 年末年始の運休について……………資料3

番号	質問要旨	回答要旨
—	—	—

報告(1)大分キャンバス 迂回運行について……………報告1

番号	質問要旨	回答要旨
1	【委員】 迂回運行は良いが、乗車したい人があまりに少ない。廃止の検討はしないのか。	【事務局】 「大分キャンバス」は、これまでの利用状況等を鑑み、昨年度に運行内容を見直し、本年4月より運行区間を「大分駅～市美術館」に縮小し、1日8往復の運行に変更いたしました。 現時点で廃止の検討は行っておりませんが、今後も利用状況を把握しながら、利用促進に努めてまいります。
2	【委員】 大分キャンバスが田室町まで運行しなくなったので、アイネスの会議の時にバスが無く不便である。	【事務局】 ご不便をおかけいたしますが、ご都合に合わせて、大分駅前のりばから路線バスやタクシーのご利用をお願いいたします。

報告(2)ふれあい交通 緑ヶ丘・辛幸2区ルートの一部変更について……………報告2

番号	質問要旨	回答要旨
1	【委員】 あまりに遠回りだが、住民にとっては良いのか。	【事務局】 当該地区の道路に一方通行の規制があるため、往路と復路で経路を変える必要がございます。経路については地元と協議の上決定いたしております。

報告(3)住宅団地の移動支援実証実験について 報告3

番号	質問要旨	回答要旨
1	【オブザーバー】 配車予約について、住民説明会等で電話予約の要望は無かったか。	【事務局】 電話予約が導入できないかという意見は頂いているが、令和5年度の実証実験では電話とタブレットの2形態のうち、9割以上がタブレットからの予約であったことや、電話予約だとオペレーターが必要になること、また今回の実証実験ではスマートフォンからの予約に限ることで、どれほど可能性があるか検証したいと考えている。

番号	意見
1	【委員】 公共交通機関の本数が減ったことで自家用車は増える一方。道路事情は悪くなり、バスしか乗らない者にとっては、ますます生きづらくなってきている。
2	【委員】 住宅団地の移動支援は必須である。

その他

番号	発言要旨
1	【委員】 大分県では来年度の予算要求にあたり、デマンド交通に必要なコールセンターやシステム等に対して、国が補助をしているイニシャルコストの上乗せや、ランニングコストにも補助が出せるよう制度設計を行っている。 また、大分県地域公共交通計画の改訂にあたり、今後、各地域で分科会を開催する予定。一般の公募委員を募集しているため、応募の周知や、分科会での積極的な発言をお願いしたい。